
戦国basara！？ いや、けど性別が……

貧弱戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦国basara!? いや、けど性別が……

【Nコード】

N5036Z

【作者名】

貧弱戦士

【あらすじ】

『桐生 竜間』という男性が戦国basaraというのが好きすぎて、ファンとなってしまった。彼は思った『俺もbasaraの世界に行って、大暴れしてえ』と。そんな彼はある日、目を覚ますと関西弁を喋る人が現れた……

プロローグ

「さっすが伊達だ……。無駄にカッケエのがムカつくが」

オッス！ オラ……。じゃなくて、俺は桐生 竜間でーす！！

まあ、何となくこの小説の主人公職業でございます……。って、何か今俺変な事思ったか？

ただいま俺は最近出た『戦国b a s a r a』っつー新しいのに夢中でしょうがねえんだ

俺もこういう技使いたいし、何か憧れる世界なんだよね

「しかし、何で今の日本はとっても嫌な時代になったんだろうな」

地球温暖化とか、地震とか……。戦国時代にはもっと小説的みたいなのが起きたんだ

平和はいいが、それもそれで……

「俺も行きたいぜ。こういう二次元的世界に……。つか、もし言ったら死ぬな、俺が」

ゲームを一旦止め、ベッドにごろんと横たわる

最近寝ていないからな、目がだんだんと閉じていく

そしていつのまにか俺は目を閉じ、夢の世界へと走って行った

「おまえさんかい!! そんな夢も希望を持っているのは!!」

「……へ? あんた誰」

目を開ければ俺はベッドの上ではなく、机にちょこんと座っていた
そして目の前にはイケメンだが、多少俺に負けるが……俺の方が
アレだし？　アレだよ

「お前さん……。悲しくないんか」

「うるせえ！！　オタク的に言うと、『リア充氏ね』だ！！」

「ワイ、この数百年間彼女おらんで」

それはそれで、俺以上に落ち込んでいる誰かさん

俺より空しいな……。ん？　数百年間？　は？　つか此処何処！？

「自己紹介がおくれたな。ワイは瞼つつーもんや。上司の命令で、
お前さんを連れてきたんや」

「瞼？　上司？　連れてきた？　……は！？」

その時、俺の少ない脳みそでも理解できた

「お前……。まさか、誘拐犯か！？」

「……まあ、バカはほおつといて、話に進で」

「あれ？　無視ですか。ああ、無視なんですな。いいですよ、どう
せ俺なんか女の子に無視され続け、最近妹からも無視され続けてい
るダメダメな下半身一度も使ったことがない男だから……」

「バカなのかアホなのか、わからなくなってもうたわ。急にネガティブになって」

そういえば、妹が最近俺に冷たい視線向けてくるな……

あいつ彼氏できたって聞くし、はは。終わった。先越されたし

「実はうちの上司が、100年に一度人間の願いを一つ叶えるっつーのがあるんや。それで、何とお前さんがその100年に一度叶えられる一人だけのラッキーボーイなんや」

「神よおおお!!?? 何で俺をイケメンにしてくれなかったんだあああ!!!」

「お前さんも一応顔はいいのに、そんな性格だからモテないんや。いいから聞け!!」

「え? 君そんな事言ってくれるの? いや、褒めてもなんもでねえよ♪ そうだ、今度俺のお気に入り●●●動画を覚えてや「じゃあかしい!!」」

な、なんだよ急に……

カルシウム足りないんじゃないのか!? 牛乳飲め!! しかれば、カルシウム一杯取れるぞ

「はあ……はあ……。なんや、あの野獣みたいなお人やな。お前さんの願いはなんや。率直に問う」

願い……願いねえ」

あ!？ アレならどうだ？ けど、叶えられるはずはねえーよな？

「俺を『戦国basara』に転生してくれ！」

「ほな、転生やと何かと付属的なのが付くんやけど……どないします？」

「んなのいるか!! 俺はんなセコイ事はしねえよ……いいから、早くしやがれ」

さあ、これで俺の今の願望はかなう。大暴れしてやるぜ……

つか、その前に生きてられるかな？ 死んだら元の子もないぜ。ま、いいや

「さあ頼むぜ。瞼さんよおー」

「(変わったお方やな。あの獣代はんと違い、なんも力はないのに付属的なのをいらないやんて……) じゃあ行くで! 『桐生 竜間。ゼウスの承諾により、転生を許可する!!!!』」

俺の周りが光り輝きだし、だんだんと風が強くなり始めた

そして竜巻が起こり出して、耳に聞こえるのは全部風の音

『バチ!!!』

「!？ な、なんや!! 陣に何故か傷ついておる!! これは……!!!!!!」

「え！？ 何！？ あんか今、スングエ電気音みたいなのが聞こえたんだけど！！！？ 心配ないよね！？」

「……………ドンマイ♪」

「ドンマイじゃねええええええ！！！？？？」

そして、俺はそこから消えた

絶対あの瞼の奴、殺す。いや、殺されていいほど甚振ってやる……！！
俺を怒らせたのだから

「オギヤアアアアアアア！！！！（はい、お決まりのパターン！！！！）」

└

俺は既に前までの姿ではなく、赤ん坊となっていた

俺を抱いて微笑んでいる女性と、それを見て笑っている男性

本当に、b a s a r aの世界か？

プロローグ（後書き）

感想をください！

第一幕 俺が転生した所はかなり強者!?

おいっす！　ども、皆さんの心のアイドルを気取っている桐生竜間でーす

苗字も名前も前のの同じで安心したけど……まあ、何というの？

両親？　が、何か凄いだよ？　俺が住んでいる所は『京』という天皇が住んでいる所なんスよ

それが、何と俺ん家道場なんだよ。俺のパパ、パイロットみたいにで……

「これ！！　どうした竜間！！　それじゃ、武将にもなれんぞ！！」

「うるせえええ！！？　俺は一応一般兵希望なんだよ！？　この腐れ●●野郎！！」

「たわけが！！　お前は『桐生家』の息子ぞ！！　代々家は、この『恵まれた体』を使い、所々の大名達に身を置いたもんぞ！！　しかし、お前にはそれはない！！」

きっぱり言いやがって……！！　パパ怖い！！

一応俺の親父『桐生 龍二』。『京』では最強と名乗っている、頭がアレな親父だ

ん？　今俺は何しているかって？　会話文通り、ただいま

「修行なんぞこりこりだああああ!!??」

「サボるなバカもーーーーん!!!!」

親父はかの有名な大●部長の如く、俺に怒鳴りつけた

見た目が20代なんて、ありえねえよ

あの髭!! 鼻下にある短い髭!! あれが語っているよ!!??

「いいから、ちゃんと修行せんかああああ!!!!」

「ぎゃああああ!!?? 子供でもトラウマ生みそうな形相で、

俺に迫ってくるーーーー!!? こういう時は撤退だーーーー!!!!」

脚を思い切り全開で働かせ、道場から俊足で出ていき市場へと出て行った

ちくしょー、あの糞親父。ぜってい顔にウ●コ着けてやる

「くそ。なんであいつは逃げる時だけ、走るのが早いんだ……!!」

「おう！！ 坊主、今日も親子喧嘩か」

「おや、タツちゃん。 どう？ 今度家で、食事しない？」

「龍二さんの息子か。 親父さん元気か？」

市場へいくと、店の人や行きかう人たちが俺に話しかけてくる

ふっふっふ、人気者は辛いですな」

ま、とりあえず夕方までこちら辺で時間でも潰そうかな

まだまだ俺の歳じゃ、戦にも出れないし……。早く暴れてえなあ

「うえーん！！　とし、まつ姉ちゃん。何処！！」

「…………ふ、まだ餓鬼か」

俺に話しかけるには、まだ十年遅いぜ

中心で泣いている女の子を無視して、そのまま足を進ませる

「ひっぐ……」

「……………」

「うう、人が大勢だから……わがんだいよ」

「……………」

神よ、俺は今試されているのか？　出来れば、5文字以内に答え
てくれ

『はいそうです』

おいしい！！　6文字だったぜ！！

あ、あの時は……親父と喧嘩して家出して何れは探しにくるだろうと思ったが、夜中まで誰も探してくれなくて目から冷たいのが出ただけだ!!

「……………」

「止めて!! その冷たい目線止めて!! そうだ、俺も探してやる!! いいか」

「え……うん、ありがとう」

なんとか話題を変えたな

「ほら、逸れないように手に掴まれ」

「う、うん……／＼／＼ ありがとう」

手を取り合って、女の子の保護者探しに!!

まあ、簡単に見つかるとは思わいがな……

「何処にも居ないな……」

「うん……」

悲しい、つか話題が見つからん

あれから3時間ぐらい探したが、やはり都会。人が多すぎて、全然見つからない

とりあえず、草原が生えている丘で一休み

「……ん？ どうした、迷子だったのにニコニコして」

「いや……なんか、こんな楽しいの久しぶりだな〜って」

「そうか？ お前も俺ぐらいなら、遊んだりしているだろ」

俺なんか、毎日ハッピーライフですから

頭じゃないよ？ 生活がだよ？

「アタシ……そんな友達居ないんだ。親もいつも忙しくて、遊んでくれるのはトシやまつ姉ちゃんだけ」

「一人悲しいな〜『ギラ！』すんません」

この子、めつきめっちゃ怖！？

「けど、こんな楽しい一日は久しぶりだ。ありがとう」

「…………俺は桐生 竜間だ」

「え？」

なにホケテんだ

「デメエも名乗れ」

「！？ あ、アタシは前田 慶次！！／／／」

そうかそうか、君がああ『花の慶次』と呼ばれている人か〜

二人の影が俺にとび蹴りをかまし、俺はそのまま吹っ飛んだ

「いやゝすまん。慶次を助けて、こんな怪我をさせてしまった」

「いや、もういいんで。子供保護団体には黙ってますよ」

「「「??:?」」」

よく考えれば、俺はまだ子供だから何してんだこの二人ってなる
よな

たく、こんな破天荒だったか？ この二人

「じゃあ慶次、帰るぞ。家に帰ったら、まつのご飯でも食べよう！」

「ほら、行きますよ」

「……………」

慶次は俺の所に寄り、頬を赤く染める

なんだ？ 惚れたか？ だが、俺にはまだ十年……

『チュ』

「「「！！！！……」」」

「竜間……／＼／＼ その話、考えておくね／＼／＼♪」

俺の頬ではなく、唇にキスしてきた

「じゃあね／＼／」

慶次は前田家と一緒に帰り、俺はそのままぽつんと突っ立っている

な、なんだこの気持ち……！！ こ、心地よい……！！

そのまま5時間ぐらい、俺は肩を抱き合い皆から気持ち悪いという目線を食らった

第一幕 俺が転生した所はかなり強者!?(後書き)

感想をください

第二幕 親父から離れて三千里!?

「うおおおおお!!!!?? 着火!!」

「待てえええええ!! またサボるのか——!!??」

「聞こえない!!! 俺には聞こえない!!!」

今日もまた俺は親父の鬼修行を脱出した!!

新たな技、『着火』。親父対専用技であり、脚を着火のように一気にスピードを上げ、差を広げるといふ奇跡的に出来た技

たぶん親父は最近修行サボっているから、市場にも来るだろう

なら、久しぶりに外に出ようか? 賊なんて逃げればいいっしょ

!!!

「いざ、天●へ!!!」

スピードを上げ、俺は京から出た

「ふはははは！！！！ 此処は何処だーーーー！！！！！！」

笑ってはみたが、何処か知らない村へとついてしまったわい！！

どうしよう、マジで何処！？ 必死に逃げたから、マジでわかんない！！

北に向かったのか、南に走ったのか……

まあ、どうにかなるか

「さあて、なんか田舎っぽいな。まさか、忍の里なわけないよな
く！！ ないない！！」

家も古く、田んぼが広い田舎

俺は自分で言い聞かせ、とりあえず前へ進む

「ねえーかすがちゃん。忍者遊びしよう？」

「佐助、まだ私たちは忍者ではないから、そういうのは止めないか」
……………どうやら、忍の里らしいですね

前に歩いている女の子二人が話しながら、忍者の事を言っている
何処かで見たような感じだが、とりあえず此処が何処だか……

「あのう……」

「「!?!?」」

『ビュン!!!』

うわゝ、話しかけたぐらいで消えたよ

なんだよ!?!! 俺がブサイクだからか!?!! イケメンならい
いのか!?!??

世の中平等なんて、俺は信じてないぞ……

「ちつくしよおおお!!!! 意地でも探してやる!! 待ってろ、
この●●共——!?!!!」

全力疾走し、さっきの二人を探す

??? side

うわゝ、何だあいつ

里の者ではないよね……？　じゃあ、他から来た人かな？

俺様たちは木の枝を使って移動し、とりあえず逃げている

「かすがちゃん。とりあえずどうする？」

「そうだな……」「うおおおおお！！！！！！」！？」

声がだんだんと近づき、もしやと思い下を見た

俺様たちに追いついてる……凄い脚力

さっきの男の子だった

「待てーーーー！！！！　俺、そんな悪い奴じゃねえから！！！！？？？
ちよつと！！　ほんのちよつとだから！！！！？？？？」

「「ちよつとってなんだよ！？」」

「うるせえええええ！！！！　いいから止まれ！！　お願い！！！！」

怪しすぎるよ!?!? 逃げなきゃ!!

速さを増し、男の子から差をつける。これでなんとか……

「なめんなよおおお!!!! これでも一応、女子の下着を見たく鍛えた脚力を————!!!!!!」

「『本物の変態じゃん!?!?』」

「変態じゃねえ————!!!! 俺は桐生 竜間だ!!!!」

名乗っているけど、変態に名乗るわけないじゃん!!

もっと、もっと!!!!

『バキ!』

「へ……?」

「!?!? 佐助!!」

脚に力み過ぎて、枝を思い切り折ってしまった

しまった……!?!? やばい、この高さから落っこちたら、さすがに俺様でもヤバイ

「!?!?!?」

竜間 side

なっ!?! 糞、めんどい事になった!!

女の子が枝を折ってしまい、今まさに落ちている

糞おゝ!! 考えている暇はねえー!!!!

「うおおおおおおお!!!! キャツーーーーーチ!!!!」

「ほへ／／／?」

木と木を使って渡り、女の子をキャッチした

はあ……こんなの、中級者向けだ。失敗したら、どうなるか

そのまま地面に着地し、女の子を下す

「大丈夫か?」

「え……えと／／／」

「怪我はねえか? すまん、変な所触ったか?」

「あの……俺様、別に／／／」

女の子は困惑して、俺の質問に答えていない

しぐさは可愛いが、大丈夫か?

「佐助!?!? 大丈夫か?」

「か、かすがちゃん：／／／ う、うん。俺様は平気」

「一応、俺はダメだ」

「「ダメなの!？」」

いや、冗談だけど

ん？ かすが？ に、佐助？ あれえ、可笑しいな？

もしや、このかすがってのはあの『かすが』で、もしや……

「お前、猿飛 佐助？」

「そう……だけど」

俺の顎は一気に地面に触れ、目玉も飛んでいる

はは、こりゃあないぜ瞼。もしや、皆女体しているのか？

「ひゃっつっつっつっつっつほーーーーーい!!!!!!!!!!」

「「!?!?」」

こりゃあいい!! ふふふ、ついに俺の時代到来!!

俺のバックは山が噴火しており、目が光っている

最高だね、瞼！ よくやった!!

「……おつとすまん。んで、大丈夫か？」

「う、うん…／＼／」

「すまん。最初は変質者と思って逃げてたんだ」

「うん、正直だね君。嫌いじゃないけど」

俺の第一人称って、そうなんだね

「俺の名前は桐生 竜間だ!! よろしく」

「私がかすが。一応この里の見習い忍だ。そして……」

「わ、わわわわ／＼／！！！！ 私は／＼／！！！！ さ、猿…／＼／
飛、佐助／＼／！！！！ よ、よろしく／＼／」

「（私！？ 一人称違うぞ）」

こ、怖いぞ。急にどうした、猿飛さん？

とりあえず握手、さっきの道へと戻った

「サンキュー！ 今日楽しかったぜ」

「ふん、まあ私も楽しかった。また来てもいいぞ」

仲良くなったのでかすがちゃんは、さっきの性格とは違うね

もう空はオレンジ色。カラスも鳴いている

「じゃあな!!」

「あ、あの／＼／＼!!」

「ン? なんだ?」

さようならしてカッコ良く去ろうとしたが、佐助に呼び止められた

「ま、また会えるよね／＼／＼!!?? 絶対に」

「ああ。じゃあな、佐助」

「／／／／／!!??」

結構時間は経つが、走って帰るか

脚に力を入れ、俺は風の如くこの場を走り去った

佐助 side

なんだろ俺様、なんか変な感じ／／／／

胸が暖かく、忘れられない顔…／／／。頭がボーとする

桐生 竜間…／／／

「はぁ…／／／」

「???」

第二幕 親父から離れて三千里!?(後書き)

感想をください

第三幕 虐め、カッコ悪!?

「まあああああぬうううかあああ!!! 竜間ああああ!!!」

「はい、このパターン!!!」

いつもの如く追いかけています!!

めんどくせえな……、あの髭親父。行動自体めんどくせえな

もういいやん!! いつもこのパターンとか正直あきね? 飽きるよね?

だから

「はい、また遊びに来ました!!」

「「また来たの……」」

「来ちゃったぜ!」

「「言い方変えても来たのね!」」

やはりここはいい

俺が今居る所は、察しているかのように忍の里

つか、もう毎日遊びに来ているね!! うん、暇人だから

「誰が暇人じゃボケエエエエエ！……！！！！！！」

「『どうした急に！？』」

まあいい。とりあえず楽しむか

「んで、今日は何して遊ぶ？ お医者さん遊びか？ 『君、此処が悪いのかね？』 『先生！！ あ、そこは……』」

「佐助、なんでお前はこんな奴に……」

「アハハハ。わかんない」

その後も一人劇場を演じていると、ある男の子たちが俺たちに近づいてくる

顔は悪そうな顔で、視線はかすがに向いている

「お！ かすがじゃねえーか！！ どうよ、最近」

「……………」

かすがside

チツ、今相手にしたくない奴らと出会ってしまった

「お前、そういえば最近佐助と里以外の奴と仲が良いって聞くぜ？」

「それがどうした？ お前らには迷惑かけてないだろ」

「ああん!? テメエ、異国の髪色しやがって!! この、疫病神が!!」

「長もお前は『呪われた子』って言ってんだよ!! 消えろよ!!」

疫病神、呪われた子

それは全て、この金色の髪のせいだ。私は元からそうだった

母も父も私も気味悪がれ捨てられ、いままで一人で生きてきた

悲しく絶望し、ある日は死のうと思ったこともあった……だが

私の隣に居る二人に視線を向ける。そう、こいつらのお蔭だ

こんな人生が楽しいなんて、初めての感覚だった。佐助に出会い、そして……

竜間、お前に会ったんだ

「無視すんなよ……仕方ねえ、お前『達』には痛い目にあってもらうぜ!!」

「達……? 達だと!! こいつ等は無関係!!」

「疫病神とツルンデいる奴らだ!! 駆逐だ!!」

酷い!! 佐助や、竜間も関係ないのに……

佐助を後ろに下がらせ、クナイを構える

「じゃあ……！　まずお前「フイー——————バァ——————」
「……………！！！！！！！！！！」『ドゴ！』ぐはっ！？」

拳が当たろうとした瞬間、奴の横から光のような速さで奴の横っ腹を『あいつ』が蹴った

蹴った相手はそのまま吹っ飛ばされ、脚をトントンと汚れを拭くように叩いている

「たくよおー、めんどくせえなおい！！　せっかく、俺の劇場を今披露している最中なのに……………！！　しかも」

だんだんと重いを上げるように進み、奴らはその迫力に押されている

「何俺の……俺のかすがに手え出してんだ！！！？？」

「「「ええ————！！！？？」」」」

「／／／／／！！！？？」

竜間side

ヤッベェ……………！！　今、友達って言おうとしたのに、何か凄い事言っただよ！？

俺『の』ってなんだよ！？　何で俺はこうダメなんだよ！！！！！！
友達って言おうとしたのに…………

本番弱いなあ

「「お前変態か!？」」

「変態じゃねえー!!」 桐生 竜間じゃー!!」

『ドン!』

俺を怒らせたな!? 泣かせてやる!!

俺は親父対専用技の『着火』を発動し、一気に虐めっ子の奴らとの距離を瞬間的に縮める

「この!!」

『スカッ』

「くらえ!!」

『スカッ』

「(上手い!! いや、凄い! 一気に縮めたはずなのに、あんな避け方するなんて。しかも、早さは佐助より……。私と佐助の脚の速さは若干佐助が上だ。だが……。しかもあの動き、まるで忍者だ。というか、何ださっきのお前が言ったこと／＼!!」 何故だ／＼!! この熱い気持ちは／＼!!」

たく、こちとらあの親父と毎日稽古してんだ

お前らみたいな遅い拳、俺には余裕で見えるね。よし、これからこの特技を俺の長所として書こう

「こ『ドゴ!』ぐふっ!」

「なっ!?! 『ドゴ!』くそ……!!!」

ふん、こんな奴ら俺の敵にすらならないぜ

奴らは腹を殴られゆっくり倒れていった

「ふー、やっと隙見せてくれたよ。ああ、俺疲れた」

「言っておくが、これは俺のセリフじゃねえ!。佐助だ」

「人任せめ……!!!」

だって、避けるのは得意だけど攻撃するのは苦手だもん!!

「まあ、今回も色々ありましたね?」

「お前が言うか……」

「今日も楽しかったよ!!」

虐めっこ達を退散させ、いざ遊ぼうとしたらもう帰らなくちゃいけない時間

「ナハハハ……。かすがちゃん、一言言っているのかな？ さもないと、俺今回良い事言っていないから……。主人公として不安なんだよ」

「くだらん事だろうが、耳は貸してやる」

厳しいな、けどそれでもいいや

かすがちゃんの手を握り、目を見つめる

「辛いときとか、悲しいときとかにさ？ 俺や佐助を頼ってくれないか？ もう、一人じゃねえんだから」

「／／／!!?? た、竜間／／／!! そんな事言ってたって、私はお前なんか振り向かないからな／／／!!!!」

「竜間……!!!!」

ありゃ、何か知らないが怒らせちゃったみたい

この後の展開が何故か読めるな、仕方ない……

「これにて退散!! じゃあな」

「コラ!!?? 待たないか!!」

「竜間————!!!」

たぶん、もうお前らと会うことは当分ないだろ

大人になったら見てるよ？ 俺がイケメンになって、強くなって

……認めさせてやるんだから

かすがside

たく……風のように去っていくなあいつ

私はさっきまで竜間と握っていた手を片方の手で温めるように、
包み込む

「はあ……／＼／＼」

甘い吐息を出し、奴の背中を何故かずっと見つめていた

俺『の』か……／＼／＼

第三幕 虐め、カッコ悪！？（後書き）

竜間

「何捏造してんだゴラァ！！ かすがちゃん可哀そう！？」

貧弱

「ええ、これを読んでくだっさ皆様！！ 誠に申し訳ないです！！」

竜間

「おい……謝るのがいいが、無視すんな」

貧弱

「タグにも『捏造』と書いておくんで、誠にごめんなさい！！」

竜間

「ねえ、無視しないで！！ 俺泣いちゃうよ！？ いいの！？ 俺の涙は毒なんだぜ？」

貧弱

「ああ、おまえの顔はまさに毒だ」

竜間

「ひどい？ もういいよ！？ 本日お開き！！ また見てくれよ」

貧弱

「感想をぜひくださいませ！！」

第四幕 地獄修行!?

俺の名前は桐生 龍二。桐生家を纏めている総大将である

『最強』と言われている桐生家なのだが、それが今滅亡の危機に
貶められている

俺の息子、桐生 竜間のせいで

奴は俺ら代々で受け継いでいる『恵まれた体』を用いていなく、
いっつもふにゃけるダメ男

幼いくせに、難しい言葉で愚弄する

だが俺は竜間の事が嫌いではない。奴は己自信を磨き、我が道を
進む男

俺はわかっている。奴は他人には優しく、己にはキツク……

だが、残念な事だ!! 俺はとても悔しい!!

竜間には熱い魂が無い!! あの時、武田信玄公と同じくらい熱
い魂があるんだっただけ……!!

「はあ、今日も道場に居ないだろ」

一応ため息をつき、道場の目の前で先の展開を読んだ

いっつも遅れては逃げる奴が、今回も来ないだろう

『ガラガラ』

「!!!?? な、ぬぁに!!!??」

だが、俺の予想は反転した結果となった

竜間が道場の中央で、瞑想をしておるのだ!!! 座禅を組み、目を瞑って耳にかすかしが聞こえない息

か、完璧じゃ!! 俺は今、感動しておる!!!!!!

「竜間!!! ついに……ついに!!!!!!」

「……………」

「今日は赤飯じゃ!! いや、豪勢に行こう!! のお、竜間!!!」

「……………」

「竜間……」

こんなに叫んでいるのに、竜間はいまだに目を開けない

しかも口を開いているが、何も喋らない

まさか……

「……にへへへ、俺はーれむ……」

「竜間 ああああああああああああああ……！！！！！！！！！！」

奴は眠っていたのだ

「竜間よ、お前は何故ここで寝ていた」

「す、涼しくてつい……」

「竜間よ、お主には魂がないのか!!」

竜間を正座させ、仁王立ちしている俺

嘆かわしい!!　こんな奴が、桐生家の跡取りなぞ……!!

「竜間よ!!　お主には、桐生家を背負うという願望はないのか?!!」

「ねえ。つか嫌。絶対やだ。なんで俺がむさ苦しい集団のドンになんきゃいかねえんだ」

「お、お前……」

我らが『恵まれた体』を、むさ苦しいだと?

ついに俺もキレたわい。これじゃ、我ら先祖代々が侮辱されている!!!

俺は此間まで考えていたのを、ついに結論を出す

「竜間!!　お主には、今から『地獄修行』を行ってもらおう!!」

「あん！？ んだよそれ！？」

「『地獄修行』、それは俺ら代々『恵まれた体』を完全に作るために行く『地獄修行』。俺もやった修行だ。お前にはそれをしてもらおうと思ったが、特別に俺が用意した『地獄修行』を行ってもらおう！！」

懐から何枚かの紙を竜間に渡した

それぞれ順番通りに書いてあり、竜間は開こうとしている

「まだ開くには早い！！ では、行ってまいれ！！ そして文を読み、その目的の場所に向かうのだ！！」

「なっ！？ というと、俺は旅に出るのか！？」

「俺らを昔から雇ってもらっておる大名たちの元で、お前はそこで修行するのだ！！ 大名たちからの使命を果たしたら、順番通りに次の紙を開き、次の修行場へ行くのだ！！」

竜間は嫌そうな顔をしだし、もうめんどくさそうな体制をとる

そうかそうか、そんなに嫌なのか……

「行ってこんど、お主の性癖を暴露「行ってきます！！ お父様！！ お母様によりしく言っておいてくれでございます！！！！」」

竜間はすぐさま荷物の支度をすまし、外へと出て行った

竜間よ……今度会おうたら、お主は俺を超えているはずだ。頑張れ

竜間 side

くそ、めんどくさい事になった!!

「親父め……。まあいい。最初の修行場は何処だ？」

壺と書いてある紙を開き、中を読む

「『最初の修行場は俺と昔からの仲の、九州の鬼島津の元だ』……
はい!？」 あの、本田忠勝の宿敵の……鬼島津だと!？」

嬉しいような、悲しいような……

けど……

「仕方ねえ。大暴れするためなら、俺はその壁を越えて見せるぜ!

！
見てろよ、糞親父！！」

おまけ

「お！ こりゃあ驚いたわい。まさかあの桐生のせがれが、オイの所で特訓とは！！ ぶわっはっはっはっ！！ こりゃあ、面白か！！」

第四幕 地獄修行!?(後書き)

感想をできればください

第五幕 鬼対変態!?

「ついた……はあ、はあ。み、三日三晩走り続けて、やっと九州に着いた……」

膝に手をつかせ、息を荒く呼吸をし始める

親父の試練から俺は三日間寝なずに走り続けたんだぞ!? 偉い
だろ!?

めんどくせえ……なんで最果ての日ノ本まで……

しょうがねえ、とりあえず島津さんに会うとするか

「すんませーん!! 桐生というんですけど、島津義弘って居ますか?」

「あなたが桐生殿ですか、大将なら鍛錬場に居ます。お急ぎを」

「あざっす」

鍛錬場か、こんな朝早いのに俺より偉いじゃねえのか?

つか何だろ

すんげえ嫌な予感がするんですけど

兵士さんが指さした場所に足を運ばせた

「おお、お前さんが桐生のせがれかい。オイは島津義弘じゃ。まあ、よろしく頼むね」

「あゝ」

「お前さんの実力をしりたいけん、準備はいいけ？」

「すみません、自分は何も悪い事していなのに何でアンタと戦わなきゃあかんねん!？」

鍛錬場では俺と島津さんがおり、周りを囲んでいる無数の兵士

率直に言おう、無理です。勝てません

ドラゴン●ールの的にいうと、まだ子供時代の悟●がフリー●完全形態を戦うぐらい無理なんだけど

別にこれは勝ち負けの勝負じゃねえのはわかるよ？

けど、修行する前に俺は昇天しちゃうから!？

「そんじゃ、行くかね!?!」

「ぎゃあああああ!?!?!? 突進してきたのが美少女ならいいけど、すんごい怖いおっさんが突進してきた!?!?!?!」

「お前さんひどかね!?!」

島津さんは大剣を軽々持ち上げ、俺に距離を詰めてくる

早い……!?!?

「そおい!?!」

『ビュン!』

「!?! あぶな!?!」

間一髪、振った大剣をギリギリで避けきれた

前髪が数本斬れたが、これでわかったのが……

島津さんはマジだったのが、良くわかった

「(ほほお、この大剣の斬撃をギリギリで避けよったわい。目がいのか……あるいは)」

「くっ……!! けど、俺は無敗伝説を築くのが夢なんでね?!?!
まあ、本気を出してやるか!!!」

拳に力を入れ、脚は自然体の構えに

伊達に毎日親父と修行しているんだからな!! 負けるわけには
いかねえんだよ

「ほお! これは面白かになりおった!! なら、オイも本気でや
らせてもらうばいね!!!」

『一刀必殺 島津義弘 出陣』

「!?! お、おい! あんたの後ろになんか文字が見えたぞ!?!」

これって、ゲームで出るアレじゃねえのか?

なんかカッコいい四字熟語で、なんかアレ的な……

「!?!? お前さん、もしかして……婆娑羅者か!?!? こりゃあ、驚いたばい!?!?」

「え、何その言葉!?!? この世界には、こういうのがあるのか」

「なら、鍛えがいがりそうだわい!?!? この一太刀、避けられるけんのう!?!?」

島津さんは何かを溜めている

まさか、ゲームででる技か!?!? ええと、たしかこの状況の場合この技かな?

頭ごっちゃになってきた!?!?

「『示現流 撃昌』」

「たしか前転からの一刀両断!?!? 横にさければいい!?!? 『着火』」

『ドーーーーン!! ビリビリ』

当たる瞬間に『着火』を発動し、横へと瞬間的に避けられた

あぶねえ、ゲームしててよかったわい

「!?!? 何処かね!?!? 桐生のせがれ!?!?」

え、まさか見えていなかったのか?

あんなに俺は島津を見ながら避けてはずなのに……俺の脚、だんだん早くなってきた

「こっちつスよ、島津さん」

「そんな所におったかいね。お前さん、忍者になりたか？」

「いや、女子の下着を見たく……」

「何か悲しか！？ あの桐生のせがれとは思わん！！ けど、桐生を超える者と見たけん」

最後は聞こえなかったが、何かやる気をさらに出したようだ

しょうがねえ、避けて避けきって体力が無くなったら攻撃開始だ！！

「うおおおおお！！！！」

「行くぜええええええ！！！！『ビリ』え……」

脚を動かそうとしたが、全く動かずまるで麻痺しているかのように

麻痺……電撃！？ そうか、しまった！！

さっきの技でギリギリで避けたから、あの時の電撃が俺の脚に当たったんだ！？

前を見て、島津さんは大剣を握って突進してくる

「ちょ!?! タンマタンマ!?!?!? お願い止めて!! 今度、春
本(エロ本) 上げるから、攻撃ストツ『ドツカ——ン!?!』」

「うう……島津さんのバカ」

「す、すまんかと。久々に骨がおる奴けんと戦ったから、ゆうこと聞かずに」

「……んで、俺の試練はなんスか？」

鍛錬場で俺は横たわって、口しか動けない

全身真っ黒状態の、ちよっと変わったイケメン風ハンバーグだよ

「そうかね。じゃあ、お前さん「竜間でいいっスよ」なら竜間、お前さんには婆娑羅者としての力を覚醒するまで、此处に居てもらおうけんの。じゃあ、よろしくね」

「……当分、京には帰れなさそうだ……」

俺の知らない言葉、『婆娑羅者』

やはり、瞼に一発ぶん殴らないと気がすまねえ……!!

第五幕 鬼対変態!?(後書き)

感想をください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5036z/>

戦国basara！？ いや、けど性別が……

2011年12月21日01時49分発行